

シラバス詳細

タイトル「2024年度 人間学部」、カテゴリ「大学 人間-人間福祉学科」

科目情報

科目名	英文科目名
[[[児童・家庭福祉 I]]]	
他学部他学科履修可否	クラス
○	1
担当教員	実務経験のある教員による授業科目
金子恵美	
学年	開講学期
2年	前期
開講時期	曜日・時限
前期	月3
講義室	科目種別
W-207	講義
ナンバリング	科目区分
CSWK202351	社会福祉専門科目
単位区分	単位数
選択	2
キャリア該当科目	備考
ディプロマポリシー	直接参照URL
1. 自己を確立し、他者と関わり、社会のさまざまな場面で困難に直面している人々に共感し、他者と関わる基礎的スキルを活かして、社会福祉に関連する課題を解決することができる。 2. 社会福祉や福祉マネジメントに関する専門的知識や技術を身に付け、それらを実際の社会におけるさまざまな場面で活用することができる。	https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=216100134308&formatCD=1

講義情報

授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

授業の目的は、子どもの主体的権利を中心に据え、子どもと家庭の生活実態、これを取り巻く社会環境について学び、子ども家庭福祉を理解することにおく。子ども家庭福祉の歴史を学ぶことを通して、主体的な子どもの権利について理解する。

また、子ども家庭福祉の法制度・関係機関と専門職の役割について、理解する。

これらの知識の習得を踏まえて、子どもと家庭の生活課題と支援のありかたを理解する。

〔到達目標〕

①子どもが権利の主体であることを踏まえ、子どもと家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解できるようになる。

②子ども家庭福祉の歴史と子ども観の変遷や制度の発展過程について理解できるようになる。

③子ども家庭福祉に係る法制度について理解できるようになる。

④子ども家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解できるようになる。

⑤子どもと家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解できるようになる。

授業概要

〔授業全体の内容の概要〕

子ども家庭福祉の意義及び歴史的展開過程、子どもと家庭に対する法制度や子どもと家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割を理解し、子どもと家庭に対する支援の実態を学ぶ。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

- 1 オリエンテーション/子ども家庭福祉とは
- 2 子どもの権利 - 歴史的経緯とこども基本法 -
- 3 子どもと家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境
- 4 子ども家庭福祉の歴史
- 5 子ども家庭福祉の領域/
 - ① 児童福祉法、次世代育成支援法、少子化対策基本法
- 6 ② 保育（子ども・子育て支援法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律）
- 7 ③ ひとり親家庭（母子及び父子並びに寡婦福祉法、子ども手当、子ども扶養手当）・子どもの貧困（子どもの貧困対策の推進に関する法律）
- 8 ④ 子ども虐待（児童虐待の防止等に関する法律）
- 9 ⑤ 社会的養育
- 10 ⑥ DVと女性支援（DV防止法・売春防止法）
- 11 ⑦ 非行問題・いじめ・不登校（子ども・若者対策支援推進法/いじめ防止対策推進法）
- 12 ⑧ 障害（特別子ども扶養手当、母子保健法）
- 13 子ども家庭福祉の専門職
- 14 児童福祉施設と連携ネットワーク
- 15 まとめ

各回の授業内容

学習演習（予習・復習）

- （1回）予習:教科書の次回の章を読んでおく（約1時間）、復習:資料を読んで、課題について自分の考えをまとめる（約1時間）
- （2-4回）予習:教科書の次回の章を読んでおく（約1時間）、復習:確認テストを行う。教科書の該当部分を読んでまとめておく（約1時間）
- （5-6回）予習:教科書の次回の章を読んでおく（約1時間）、復習:確認テストを行う。教科書の該当部分を読んでまとめておく（約1時間）
- （7-9回）予習:教科書の次回の章を読んでおく（約1時間）、授業のテーマに関連するニュースや資料を集めておくこと（約1時間）
復習:授業での課題について、再度、自分の考えをまとめる（約1時間）
- （10-12回）予習:教科書の次回の章を読んでおく（約1時間）、授業のテーマに関連するニュースや資料を集めておくこと（約1時間）
復習:授業での課題について、再度、自分の考えをまとめる（約1時間）
- （13-15回）予習:教科書の次回の章を読んでおく（約1時間）、復習:確認テストを行う。教科書の該当部分を読んでまとめておく（約1時間）

授業方法

授業のはじめに、講義資料を配布する。資料によって授業の流れを理解し、また復習でも用いることができる。

授業では、視聴覚教材や資料を用いて具体的な子ども家庭福祉の事例や実践を通して学びを深める。

学生が自身で考えることを重視し、グループワーク等を通して、課題解決（PBL）の糸口を学習する。

・講義の中で「課題」を提示する。学生はこれについての自身の考えを記載してから、小グループでディスカッションを行う。

・グループワークの結果について、プレゼンテーションを行う。

リアクションペーパー、課題、確認テスト等で学生の理解度を確認し、次週に復習を兼ねてフィードバックする。

授業終了時やリアクションペーパー等で随時質問を受け付け、学生の疑問や意見にフィードバックできるよう努めている。

学生に、積極的に参加し意欲的な学習態度を求める。

成績評価の基準

筆記試験(60%)、グループワークやプレゼンテーション等の授業への参加度(20%)、リアクションペーパー・確認テスト等による理解度(20%)、により総合的に評価する。

教科書

教科書名:『児童・家庭福祉(新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック12)』, 2021年

出版社名:中央法規

編著者名:日本ソーシャルワーク教育学校連盟

ISBNコード:478-4-8058-8246-7

参考書

必要に応じて指定する。授業で配布する資料はファイルして、授業時に持参すること。

実務経験のある教員による授業

-

実務経験の内容

-

実務経験の当該科目への活用

-